



～思いやりと交流で創る 新生文化都市～

# 「下野市」の誕生を迎えて

下野市長職務執行者 宇賀持 正紀

1月10日、南河内町・石橋町・国分寺町が合併し、大きな夢と期待を担った『下野市』が誕生し、急激に変化する社会に適切に対応できる自治体確立に向け、新たな歴史をスタートできることになったことを、皆さんと共に祝いたいと思います。

新市は、人口5万9千余人、面積75km<sup>2</sup>を擁し、数々の特徴を有する全国にも誇れる県下屈指の地域であります。

顧みますと、合併までには様々な紆余曲折がありました。が、生活圏、文化圏を共にし、多くの共通点を有する3町が他に埋没することなく、自主的、主体的な自治体を確立し、より一層の発展と住民福祉の更なる向上を目指し、安全・安心で心豊かな生活ができ、郷土に誇りと愛着を持てる新市を創造するため、3町の合意に基づき平成15年12月1日、南河内・石橋町・国分寺町合併協議会を設立、2年有余22回にわたる協議を積み重ね、昨年3月には、3町同時に合併関連議案の議決を経て今日を迎えることができました。これも一重に市民の皆さまの新市誕生に対する深いご理解とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げますと共に、ご指導いただきました国・県の関係機関、ならびにご尽力をいただきました関係者の皆さまのご苦勞に対しまして敬意を表するものであります。

下野市は面的にコンパクトで、過疎でも過密でもなく、平坦で行政効率の高い地域です。また、住民自治の観点からの人口規模も手頃であり、豊かな自然と古くから培われた歴史や文化があります。更に、各々の地域には心温かで意欲に満ちた人々によって育まれた豊かなコミュニティがあります。新市の持つこの豊かな資源を最大限に活用し、互いが結びつき、支えあいをもとに地域の一体性の醸成と一層の活性化が期待されます。

市民一人ひとりが夢を持ち、生き生きと暮らせる元氣あるまちづくりを、互いに知恵を出し合い、力を結集して推し進めていきたい、そんな願いを込めた新市の将来像「思いやりと交流で創る 新生文化都市」の実現に向けて、更なる飛躍を目指すものであります。

20年、30年後の市の姿を見据え、すべての市民がいつまでも誇りと愛着を持ち続けられる下野市を建設することが、私たちに課せられた使命であります。

時代の厳しい波を乗り越えての新市の限らない発展のため、市民ならびに関係者の皆さまの市政への積極的な参加とご支援、ご協力をお願い申し上げます。新市発足にあたってのご挨拶といたします。